そして人はいなくなっちゃいました（リレー小説の３話目）

日下部良介

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
そして人はいなくなっちゃいました（リレー小説の３話目）

【Ｎコード】
Ｎ３１３３Ｒ

【作者名】
日下部良介

【あらすじ】
ある日、突然大阪から人が消えた。

（前書き）

これはリレー小説です。聖魔光闇さんが始めて、これが3話目です。
真野優さんから引き継ぎました。
まだストーリー的にはほとんど進んでいません。続きを書きたい方はご自由に！

これはリレー小説です。
続きが気になる方は、好きに作っちゃってください！
続きがどうなるのか、読みたいので、聖魔光闇までご一報ください。
（ここだけ、毎回あとがきに入れてください）

誰の物語を引き継いだのかを明記して、物語を繋いでいきながら、完結したら、すごいな。と思います。（どんな話になるのかと、ドキドキします）

だけど、どうして大阪なんだろう…。　そう言えば、会社も変だった。　いつもなら、ほとんどの社員が残業をしているのに、今日は定時を過ぎたばかりなのに誰もいなかったなあ…。　それにしても、どうして僕だけ…。

二時間前、僕は上司に頼まれて得意先へ書類を届けに行ったんだ。
そうだ！　あそこは西宮だったな。　つまり兵庫県だ。　つまり、僕がそこに行っている間に何かが起こったということになる。　僕は引き続きテレビの画面を見た。

このままここにいても何の解決にはならない。　僕は取り合えず、人のいるところへ行こうと思った。　そして、無駄だとは思ったが駅へ行った。　当然無人。
「だけど、大阪へ入ってくる電車だってあるはずだよな…。　現に僕だって、電車で帰ってきたんだから。　いや、待てよ…」その時の様子が頭の中によみがえる。
偶然かも知れないが、僕が乗った車両には誰も乗っていなかった気がする。　そして、降りた時も僕だけだった。　自動改札だから、

係員がいるか、いないかなんてその時は気にもしなかった。
いくら待っても電車が来そうな気配がなかった。　仕方がないので歩くことにした。　僕はホームから線路に飛び降りるとレールの上を歩いて兵庫方面へ歩いた。

（後書き）

この小説の後を書かれる方は、必ず、聖魔光闇さんへご一報ください。
聖魔光闇さんが責任を持って。最後まで追跡し、結末を見届けます。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3133r/

そして人はいなくなっちゃいました（リレー小説の３話目）

2011年10月4日20時35分発行